Introducing some popular sightseeing spots with foreign visitors (From, *Ashiya wo Aruku Hon "Ashiya"* (Walking Around Ashiya Guidebook))

外国人観光客に人気のスポットを紹介（『あしやを歩く本「芦屋」』より）

ルート 歩行時間約3時間

阪急芦屋川駅 30分 高座の滝 35分 万物相 10分 風吹岩 10分 構池 45分 蛙岩 15分 金下山道跡 25分 阪急芦屋川駅

日本のロッククライミング発祥の地

芦屋ロックガーデン

Rock Garden

六甲山系を登る無数のルートの中でも、奇岩群を越えながら登るロックガーデンは1年を通して多くの登山者でにぎわう人気のルート。むきだしになった花崗岩が織りなす自然の造形とともに、遠く紀伊半島まで見渡せる眺望が登山者を楽しませてくれる。

1 ジャングルジムのような岩登りが醍醐味

スタートは阪急芦屋川駅。改札口を山側に出て、阪神高速西宮から続く「高座の滝遊歩道」を芦屋川沿いに北へと向かう。「高座の滝・ロックガーデン」の標識が節目ごとに立っているので、導かれるままに歩け る。住宅街を抜けていくと、白文字で「ロックガーデン」と書かれた「滝の茶屋」のトンネルが現れる。先に進むと見えてくるのが護摩堂。次第に水が岩をすべる音が耳に入ってくる。「高座の滝」だ。高さ10mから流れ落ちる水の勢いは力があり、かつては修験者の道場だったという。滝の左側上方には、日本の登山界の草分けの1人、藤木九三氏のレリーフが貼られている。

藤木氏は、朝日新聞の神戸支局長を務めていた1924年（大正13年）、岩登りを目的とした山岳会、RCC（ロック・クライミング・クラブ）を山岳仲間とともに創設。住居地から近かった芦屋川上流の変化に富んだ岩をトレーニングの場とした。一帯は藤木氏によって「ロックガーデン」と命名され、日本におけるロッククライミング発祥の地として知られるようになった。RCC創設からさかのぼること8年、1916年（大正5年）には、ロックガーデンのルートを登る市民登山の「やまゆき会」が発足している。登山家だけでなく一般市民も行き交う登山道として古くから親しまれてきたことが分かる。

「高座の滝」にかかった木橋を渡り、登山道へと入っていく。ごつごつした岩石群の中から足場を見つけ一歩ずつ登る。途中いくつかの分岐があるが、「風吹岩」の標識を選んで進む。しばらく行くと、眼前に白く大きな岩肌が立ちはだかった。迂回するように階段状に踏みしめられた道を通るもよし、手がかりと足場を見つけながら正面からよじ登るように上がってもよし。急な岩場にはくさりや鳥はしごがかけられている。岩に挑みながらの登山は、ロックガーデンならではの醍醐味。

2 高座の滝

高座の滝。いよいよ岩登りが始まるコースの入口。荒屋に近く登山者の登山の場にもなっている。

Ashiya Rock Garden

It is said that Ashiya Rock Garden is the first rock climbing course in Japan. The book *Ashiya wo Aruku Hon "Ashiya"* has pictures of cliffs, waterfalls on the rock climbing course as well as beautiful scenery seen from the course.

芦屋ロックガーデン

「芦屋ロックガーデン」は、日本におけるロッククライミング発祥の地です。『あしやを歩く本「芦屋」』では、登山コースにある岩場や滝、コースから見える美しい景色をたくさんの写真で紹介しています。

YODOKO Guest House

YODOKO Guest House, designed by Frank Lloyd Wright, is a famous designated national cultural treasure.

At present, it is closed due to preservation repair work. It is scheduled to be open to the public in spring 2019. Although the interior cannot see seen until it reopens, this Ashiya guidebook has many beautiful pictures for you to see.

ヨドコウ迎賓館

「ヨドコウ迎賓館」は、フランク・ロイド・ライトが設計したことで有名な、国指定重要文化財です。

現在は保存修理工事のため閉館していて、2019年春に公開を予定しています。公開まで見ることのできない館内を、『あしやを歩く本「芦屋」』ではたくさんの写真で紹介しています。

フランク・ロイド・ライト(1867〜1959)の
生涯のテーマ「有機的建築」を具現化
ライト設計当時の
姿を保つ住宅建築

1947年(昭和22年)に淀川製鋼所の所有となり、1974年(昭和49年)に国の重要文化財に指定、1989年(平成元年)から一般公開された。1995年(平成7年)の阪神・淡路大震災の被害を受けたが、3年半リ・を仕付で修復された。

ヨドコウ迎賓館

(国指定重要文化財 旧山邑家住宅)

有機的建築の具現化

阪急芦屋川駅から、山手を見上げた先、緑に囲まれた小高い丘にある洋館は、近代建築三大巨匠のひとり、フランク・ロイド・ライトが設計した住宅建築「ヨドコウ迎賓館」。

灘の酒造家(櫻正宗)の山邑太左衛門氏の依頼で、1918年(大正7年)に設計された。ライトのアメリカ帰国後、弟子の遠藤新・南信らが施工を引き継ぎ、1924年(大正13年)に竣工した。

ライト建築の特徴は、土地と建物の一体化にある。ヨドコウ迎賓館は全体としては4階建てだが、山肌のゆるやかな傾斜を活かし、階段状に建てられているため、どの断面も1階または2階建ての構造になっている。敷地や環境と一体となった建築デザインにより、自然と建築の融合、人間との共存をめざしたライトの建築思想(=有機的建築)が表現されている。

建物のデザインを特徴づける大谷石の装飾。近畿地方の凝灰石の建築物では、白華石(にっかせき)(石川県小松市)、竜山石(たつやまいし)(兵庫県高砂市)が使われていることが多い。

3階吉祥間下の廊には建物の屋根をモチーフにした窓。日射が遮められ、木漏れ日のような西日が射し込む。時刻毎を変えて写真撮影する人も多い。

細部にまで行き届いた空間演出

栃木県宇都宮市大谷町周辺から産出される緑石凝灰岩である大谷石の重用は、日本におけるライト建築を特徴づける要素のひとつ。大谷石の建築物として有名な旧帝国ホテル(愛知県犬山市)の建築時、大谷石を採掘するために山ごと買い取ったという逸話(通称ホテル山)が残るほど、ライトは建築材料にこだわった。ヨドコウ迎賓館でも、外壁、柱、階段、バルコニー、暖炉など、内外装の至る所に用いられている。石に刻された幾何学的な装飾模様も見ところで、細かく彫り込むことを前提に、やわらかくて加工しやすい建材として採用された。表面の凸凹や、「ミソ」と呼ばれる斑点が混じった褐色がかった色合いが、外壁や家具などの色調と調和し、あたたかみの感じられる大谷石の質感は、石に対する固定観念を払拭する。

ほぼ全室に天井板明がなく、天井近くに並んだ小窓や三角形に仕上げられた通風孔、植物の葉をモチーフにした飾り鋼板などは、自然光を巧みにとり入れるための仕掛け。あらゆるパーツや装飾が陰影をつくり、造形美を浮き彫りにし、木漏れ日のように光と影を演出する。ライト建築が、ほぼ完全な形で芦屋にある。その奇跡を享受してほしい。